

## 2025年度 授業コード: 21105900

授業科目	*看護総合実習				実務家教員担当科目	-	
単位	2	履修	必修	開講年次	4	開講時期	通年
担当教員	原 頼子						
授業概要	学生は、自己の将来を展望した総合的な実践能力を養うために、自らの看護実践能力を評価し、今後の課題に向けた実習計画を立案し、現場との調整を図りながら計画的・主体的に実習を展開する。対象を総合的に理解し、根拠に基づく看護を実践・評価し、倫理観に基づく態度を養う。実務経験を有する教員と臨地実習施設担当者が実習を支援する。						
授業形態	対面授業			授業方法	実習		
<b>学生が達成すべき行動目標</b>							
標準的 レベル	<p>1. これまでの実践で得た自分の知識・技術の到達度を振り返り、看護実践能力を評価し、今後の自己の課題を明確化することができる (DP2-1)。</p> <p>2. 課題を解決するために必要な知識を基に総合実習の全体計画を立てることができる (DP2-1)。</p> <p>3. 対象を総合的に理解し、健康問題を明確にし、看護の方向性について考えることができる (DP2-1)。</p> <p>4. 対象の健康問題を解決するために、優先順位や計画を修正し、対象特性 (個別性) に合わせた看護を実践することができる (DP2-1) (DP5-1) (DP5-2)。</p> <p>5. 対象を中心に据えたより良い看護実践を目指し、評価・修正しながら実践することができる (DP5-1) (DP5-2)。</p> <p>6. 実践した看護は、看護記録の基本に則り、記録することの重要性について述べるることができる (DP2-1) (DP5-1)。</p> <p>7. 対象の生活を支える多職種役割を理解し、社会資源の実際について述べるることができる (DP2-1) (DP5-2)。</p> <p>8. 多職種と連携・協働し、継続看護の実際を経験することができる (DP2-1) (DP3-2)。</p> <p>9. 保健医療福祉チームの一員として、倫理観に基づいた責任ある行動をとることができる (DP4-1)。</p> <p>10. 看護の質向上に向けて、生涯、学習者として自己研鑽を続けることができる (DP3-1) (DP4-2) (DP4-3)。</p> <p>上記の内容の 80%未満とする。</p> <p>教職課程の総合実習の標準的レベルは別に提示する。</p>						
理想的 レベル	<p>1. これまでの実践で得た自分の知識・技術の到達度を振り返り、看護実践能力を評価し、今後の自己の課題を明確化することができる (DP2-1)。</p> <p>2. 課題を解決するために必要な知識を基に総合実習の全体計画を立てることができる (DP2-1)。</p> <p>3. 対象を総合的に理解し、健康問題を明確にし、看護の方向性について考えることができる (DP2-1)。</p> <p>4. 対象の健康問題を解決するために、優先順位や計画を修正し、対象特性 (個別性) に合わせた看護を実践することができる (DP2-1) (DP5-1) (DP5-2)。</p> <p>5. 対象を中心に据えたより良い看護実践を目指し、評価・修正しながら実践することができる (DP5-1) (DP5-2)。</p> <p>6. 実践した看護は、看護記録の基本に則り、記録することの重要性について述べることができる (DP2-1) (DP5-1)。</p>						

<p>7. 対象の生活を支える多職種の役割を理解し、社会資源の実際について述べるができる (DP2-1) (DP5-2)。</p> <p>8. 多職種と連携・協働し、継続看護の実際を経験することができる (DP2-1) (DP3-2)。</p> <p>9. 保健医療福祉チームの一員として、倫理観に基づいた責任ある行動をとることができる (DP4-1)。</p> <p>10. 看護の質向上に向けて、生涯、学習者として自己研鑽を続けることができる (DP3-1) (DP4-2) (DP4-3)。</p> <p>教職課程の総合実習の理想的レベルは別に提示する。</p>											
<b>評価方法・評価割合</b>											
<b>評価方法</b>		<b>評価割合 (数値)</b>					<b>備考</b>				
試験											
小テスト											
レポート											
発表 (口頭、プレゼンテーション)		10			0						
レポート外の提出物		10			0						
その他		80			看護実践、実習態度						
<b>カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング</b>											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31408J
<b>学習課題 (予習・復習)</b>										<b>1 回の目安時間 (時間)</b>	
<p>自分の 4 年間の看護技術の達成状況を振り返ることと、総合実習で到達したい目標に向けて自己の課題を見出す。</p> <p>担当教員への相談を得て、実習受け入れ先との交渉・調整を図りながら、「実習全体計画書」の準備を進める。</p>										0	
<b>授業計画</b>											
<b>第 1 回</b>	<p>1. オリエンテーション</p> <p>1) 看護総合実習は 4 年間の学びの集大成の実習と位置付けられる。本実習は学生が主体的に臨地における実習を展開していくこと及び実習の目的・目標、看護実践能力として目指すところを説明する。</p> <p>2) 専門実習で実施した看護実践を基盤とし、複数患者を受け持つ場合や、複雑な症状が絡み合う患者の優先順位の判断に必要な根拠、看護実践の具体例についてグループで話し合う。</p> <p>3) 臨床で実践した看護を看護記録として残す重要性和、看護記録の種類や記載方法についてグループで話し合う。</p> <p>4) 医療チームにおける多職種間の連絡調整方法についてグループで話し合い、効果的な継続看護につなげる方法を考える</p> <p>5) 実習の評価は自己評価と教員評価で行う。学生は、実習計画及び実践内容から自己評価を行うことを説明する。</p>										
<b>テキスト</b>	指定なし。										
<b>参考図書・教材 / データ</b>	<p>大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 第二次報告</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf</a> 文部科学省 2020 年 3 月 (2025. 3. 20 現在)</p>										

ベース・ 雑誌等の 紹介	看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000552462.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000552462.pdf</a> 厚生労働省 2020年10月(2025.3.20現在) 適宜紹介する予定です。
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	看護総合実習の評価は、自己評価をもとに2者評価を行う。 必要時、個人面接によりフィードバックする。
学生への メッセー ジ・コメ ント	これまでの臨地実習・演習における既習内容・看護実践を振り返り、看護総合実習で到達したいことに向けて必要と考える事項を学習しておくこと。 学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則とするので、自らが積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めてください。